

2025年3月14日

News Release

芙蓉総合リース株式会社
(コード番号：8424 東証プライム)
代表取締役社長 織田 寛明

大分県臼杵市における系統用蓄電池事業について

芙蓉総合リース株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 織田寛明、以下「芙蓉リース」）は、大分県臼杵市において系統用蓄電池事業（以下「本事業」）を実施することをお知らせいたします。

本事業は当社グループとして各種補助・助成制度に依らない系統用蓄電池事業の取り組みとして、福岡県筑紫野市における系統用蓄電池事業*1に続く2件目となり、運転開始は2026年5月を予定しています。

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて再生可能エネルギー（以下「再エネ」）の導入が拡大する中、天候や時間帯により発電量が大きく変動する再エネ電源に対する出力抑制も増加しています。特に九州エリアは、太陽光発電を中心とする再エネの導入が先行して拡大していることから、出力制御が多発する地域となっており、需給調整機能を保持した蓄電池の重要性が増しています。本事業を通じて電力系統の安定化に寄与する運用を行うことで、一層の再エネ電力の普及・拡大に貢献できるものと考えています。

本事業はRSアセットアドバイザーズ株式会社（東京都港区、代表取締役社長 平林裕二、以下「RS」）と連携し、芙蓉リースが蓄電池メーカー・アグリゲーター*2の選定、蓄電所の単独保有および完成後の事業運用を担い、RSが事業用地の選定、取得交渉、電力系統の確保、事業計画の作成など開発業務、および完成後の蓄電所の運営管理を担当します。

芙蓉リースグループは2022年度からスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとしての持続的な成長を目指しております。

また、「エネルギー環境」を経営資源を集中投下する成長ドライバーのひとつに位置付け、多様なエネルギー関連事業を国内外で展開し、脱炭素社会の実現に貢献するビジネスに取り組んでいます。電力需給の安定化と再エネの主力電源化に向けて必要不可欠な新たなビジネスモデルである系統用蓄電池事業に積極的に取り組むことで、ビジネス領域の拡大と豊かな社会の実現に貢献してまいります。

●本事業の概要

| | |
|------------|-------------|
| (1) 事業者名 | 芙蓉総合リース株式会社 |
| (2) 事業地 | 大分県臼杵市 |
| (3) 定格出力 | 1,959.9kW |
| (4) 定格容量 | 8,340kWh |
| (5) 蓄電池方式 | リチウムイオン電池 |
| (6) 運転開始予定 | 2026年5月 |

※1 福岡県筑紫野市における系統用蓄電池事業について(2024年12月18日付けプレスリリース)
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8424/tdnet/2541159/00.pdf>

※2 小規模な再生可能エネルギーや需要家を一つに束ねて効率的に管理することをアグリゲーションと言い、同サービスを提供する事業者(特定卸供給事業者や小売電気事業者など)をアグリゲーターと言う。

以上

お問い合わせ先

芙蓉総合リース株式会社 コーポレートコミュニケーション室 (担当) 山崎

電話番号 03 (5275) 8891 URL : <https://www.fgl.co.jp/>